

『飲酒』に由来しない反応について

弊社測定器はアルコール検知器であるため、アルコール（エタノール）を微量でも含むものを口に入れば、いわゆる「飲酒」がない場合でも反応することがあります。

ただし、飲酒の場合のように消化管から吸収された血中のアルコールが呼気中に排出されているわけではなく、あくまでも口腔内に残った物質中のアルコールが呼気に混ざることによる反応のため、水でうがいや、唾液等で流されてしまえば反応は出なくなります。

血中アルコールが呼気中に排出される場合は通常、数十分～数時間かけて徐々に数値が下がっていくのに対し、口腔内の物質による場合は比較的高めの数値が検出された場合でも、1～5分程度の短時間でゼロになるという特徴があります。

使用後にアルコール検知することがあるものには、洗口液（マウスウォッシュ／オーラルリンス）、液体ハミガキ、口臭消しスプレー、入れ歯安定剤などがあります。これらは消毒用のアルコールを高濃度に含んでいるものが多く、使用後にアルコールを検知することがあります。入れ歯安定剤などの場合は、用法上、比較的長時間口腔内にアルコールが残ることもあります。

また、一般的な飲食物でも、パンや味噌のように、酵母による発酵によって製造工程でアルコールが生成されるもの、ジュースや一部の加工食品のように、香料を溶かす目的や、腐敗を防ぐ目的で微量のアルコールが添加されているものがあり、飲食の直後にはアルコールを検知することがあります。

このような口腔洗浄剤類の使用や、飲食をした際には、流水でうがい後、15分以上時間を空けてから測定していただくことで検知を避けることができます。